

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472100375		
法人名	有限会社 恵敬グループホーム		
事業所名	恵敬グループホーム		
所在地	三重県いなべ市北勢町垣内482番地2		
自己評価作成日	平成24年12月28日	評価結果市町提出日	平成25年3月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&PrefCd=24
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 25 年 1 月 23 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人のペースに合わせたゆったりとした自由な時間を大切に、我が家のように過ごせる場を目指している。
 ご本人はもちろん、ご家族様が喜ばれ、安心できるという気持ちを尊重し、家族のように地元と一緒に生活していくという意識をもっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

藤原岳から竜ヶ岳にまたがる鈴鹿山系の麓、公立小学校近くの集落の中にある民家改修型のユニットのホームである。開設して10年が経ち、代表(管理者)の「利用者は自分の実親だと思って接する」という基本理念が、全職員に浸透している。利用開始時に、混乱から暴言や暴れる利用者が、心に寄り添う介護が実践されて落ち着き、今はその面影さえない。9人の利用者全員は、顔の表情がやさしく、職員の見守りのなか、静かで穏やかな生活を送っているのが伺える。すぐ近くの開業医が協力医療機関として定期的な往診があり、場合によっては、他の医療とのつなぎをしてもらうことができ、医療との連携がよい。さらに歯科衛生士と契約しており、月に1回口腔ケアを受けて、毎日10時と3時にラジオ体操、嚥下体操などが日課となって元気を維持している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職場会議において、管理者の考えを職員に伝えている。 理念は職員の目に付くところに掲げられており、常に意識付けを行い、実践に努めている。	「利用者は自分の親と同じと思って接する」という基本理念は、全職員に浸透している。理念に沿った介護の実践が開設時からゆるぎなく継続している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの小学校や保育園の運動会等にも招待してもらい、交流を続けている。 近隣には、挨拶を欠かさず、避難訓練にも参加していただいている。	管理者(代表)は、地元出身者でなく受け入れられるのに苦労もあったが、地道に近隣とのつきあいを継続していく中で、構築されてきている。地元の小学校や保育園との交流もある。本年度、近所の方に、避難訓練に参加をしてもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域や近隣への挨拶を欠かさず、認知症に対しての理解を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の結果や日々の活動、利用者の状況を報告し、意見をもらっている。	行政、包括支援センター、自治会長、老人会長、民生委員、近隣の方などの参加を得て運営推進会議を開催している。本年度は、災害時の避難訓練を兼ねて開催した。議題や運営の在り方など模索中である。	近くの交番のおまわりさんはホームのことを理解されており、消防署や包括の保健師など身近な方々に参加要請して、議題を膨らませていく工夫を期待する。家族の参加の検討を願う。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿介護課と地域包括支援センターに運営推進会議に参加してもらい、情報交換を行い、助言をもらっている。	わからないことは、いつでも行政の担当に聞き指導を仰いでおり、更新手続きにも出向いている。また、研修や講演会の情報も得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を行い、なぜ身体拘束がいけないかを理解して利用者の立場に立つ介護を行っている。	「具体的行動指針」をもとに、拘束・虐待など研修は継続して実施している。自分たちの介護が拘束にあたるかどうかを職員同士お互いにチェックし、気づくケアが実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について研修を行い、何が虐待になってしまうのかを学び、自分たちの介護を振り返るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は活用している利用者はいないが、必要があれば、利用に対する支援を行う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書面に沿って、利用者や家族に説明をし、納得していただいてから契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から管理者が電話で家族と連絡を取り合っている。 面会時には必ず職員が日頃の様子などを伝えると同時に、ご家族の話も聞いている。	面会時には様子を伝えるとともに、要望を聞いている。また、家族へ月に1回、月報で様子を報告し、年に1回、写真入りの「愛の架け橋だより」を発行して知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回程度職員会議があり、職員の意見を出し合い話し合っている。 また、個別でも管理者や主任が職員からの意見・提案を聞き取っている。	要望は職員会議だけでなく、いつでも管理者へ提案が出されている。入浴用にキャスターが付いた椅子の購入要望が出て、実現に至った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が個々の職員と面接を行っている。 勤務体制は、できるだけ個々の都合を配慮し調整して、働きやすい職場をめざしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を業務と認め、研修に必要な費用を出している。 職場会議の場を利用して、勉強会を開いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス協議会に入っており、情報交換を行ったり、研修会に参加したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面接して、話を聞くことで、不安を軽減するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご自宅を訪問したり、施設に在所していただき、ご家族の話を聞いたり、施設の理念を説明したりしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅であれば、担当ケアマネージャー、入院中であれば、病院からの情報を得ながら、家族と一緒に考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者が一緒になって掃除をしたり、歌を唄ったり、テレビを見たりすることにより、家族のような関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族や知人の面会時間を制限せず、職員は、本人の様子を伝えるだけでなく、家族の話も傾聴し、共に本人を支えていく関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時や面会時に家族から得た本人の生活歴を元にして、昔話や地元の話職員と一緒に会話をしている。 いつでも外出・外泊できることを家族に伝えている。	職員の大半は地元の方で、利用者で共通した話題が出て和気あいあいとした会話が弾んでいる。会話の中から思い出が掘り起こされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性の良し悪しを職員が把握し、トラブルになる前に座席の変更をしたり、間に入ったりして援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族に電話で近況を尋ねたり、入院先を訪問して、相談に乗るようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族の話聞き、意向の把握に努めている。 意向の表出が困難な場合には、表情やこれまでの生活歴などから汲み取るようにしている。	話をじっくり聞いて、顔色・声・身振り・態度から根気よく思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にこれまでの暮らしを教えてもらっている。入居前のケアマネージャーと連携して情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的に会話したり、一緒に掃除や洗濯物たたみなどをする中で、心身状態や有する能力を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の職員会議で、現在の課題について話し合って対応を考えている。 3か月毎に、ご家族に介護状況を記載したモニタリング結果を送付して報告している。	サービス担当者会議が開催され、介護支援専門員が仮の計画書を作成する。さらに職員から意見が出され、家族の意向を聞き、正式の計画書が作成される。3か月ごとにモニタリングが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別の日記に記録し、職員間で周知が必要なことは、申し送りノートに記入して、情報の共有を図っている。 月1回の職員会議で計画の見直しや介護の工夫を話し合い、共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族と連絡を取りながら、必要時にはサービス担当者会議を行い、本人の状況に適したサービスを考えている。 ご家族が通院介護できない場合は、通院介助を行い、入院中は、洗濯なども行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校や保育園と交流している。近所のお巡りさんに避難訓練に参加してもらったりして顔なじみになっている。地域の理容院に出張してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近所のかかりつけ医が往診や夜間や緊急時の対応をしてくれる。電話で状況を報告して相談にも対応してくれる関係を築いている。	近くの開業医が協力医で、半年に1回定期健診を受けている。37度以上の熱があれば、すぐに往診を受けることができ、緊急時は携帯での対応も可能である。薬の管理は、複数の職員で行い、ミスのないように努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護職はいないが、小さなことでも近所のかかりつけ医に電話で相談できる状況にはなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要なときはかかりつけ医からの紹介状をもらい情報提供している。入院中は面会に行き状況把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合についての事業所の方針を説明している。状態悪化していく段階で、かかりつけ医やご家族と相談しながら、事業所としてできる限りのことを支援している。	指針はあるが、その状態に応じて、主治医と相談し、主治医の判断に委ね、それにそって家族と相談し対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導を受けて、応急手当の訓練を受けている。職場会議において、緊急時の対応を話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回消防署、近隣住民の方にも参加してもらい、夜間想定での避難訓練を行っている。その他にも地震や昼間火災想定での避難訓練を行っている。	災害訓練は、春・秋のほか、地震を想定した訓練、夜間の火災での避難訓練など実施している。本年度の訓練は消防署の指導でマッサージやAEDを使っでの訓練、また近所の方の参加を得て実施された。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者を自分の家族、自分の行く道と考 え、一人一人を大切に介護している。 事業所の理念を職場会議で確認して、人格 を尊重する介護をめざしている。	入浴や排泄時など羞恥心が伴うことについて は十分注意をしている。利用者同士がそれ ぞれの居室へ入り込まないようにしている。 記録などの書類はきちんと別の部屋で管理 がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	家庭的な話しやすい雰囲気づくりに努め、 個々にゆっくり関わる時間を取り、本人の希 望や思いが表出しやすいようにしている。、		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションなどの参加は無理強いせず、 本人の意思に任せている。 自室でも共有スペースでも好きな場所で、 自分のペースで過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	毎日化粧をしている人もある。 理容院に出張してもらっているが、自分の行 きたいときに理容院に外出していく人もあ る。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	職員が季節感を考え食事を提供し、会話を 楽しみながら一緒に食事を摂っている。 地元の野菜や果物を使い、自家製の漬物 や果物のジュースを作り提供している。	献立は主任、買い出しは管理者の役割に なっている。食前に、嚥下体操をし、職員によ る手作りの家庭料理で、介助・見守りをしな がら、職員とともに全員で食事を摂っている。 おいしい食事風景である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	本人の状態に合わせて、食事の形態を変え ている。 本人の好みに合わせて、温かいお茶、冷た いお茶、スポーツドリンクなど、工夫して水 分量が確保できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	月1回歯科衛生士による個別指導を受けな がら、一人一人に応じた口腔ケアを行って いる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンに合わせてトイレに誘導している。 歩行が不安定な入居者には自室にポータブルトイレを置き、自分のペースで排泄できるようにしている。	パットに頼るのではなく、目配り・気配りを小まめにし、トイレでの排泄支援をしている。失敗をしても、さり気なく迅速に対応がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の食べ物や水分摂取を心がけている。 排便を促すために腹部をマッサージすることもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の長さや温度は出来る限り本人の好みに沿うようにしている。 入浴拒否がある時は、無理強いせず、その人が入りたい気持ちになった時に、曜日にこだわらず、入浴していただく。	冬場は週2回の入浴になっている。ゆっくりと入浴を楽しんでもらう支援がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の睡眠パターンに応じて、ベッドに誘導している。 不安のある人に添い寝をすることもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方されたり変更があった時には、必ず職員の申し送りノートに記載している。 3名で服薬確認を行い、間違いのないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯物たたみなど出来ることを出来る範囲で手伝ってもらい、自分の役割として誇りを持ってもらう。 歌が好きな入居者が率先してレクレーションを始めたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の状態もあり、全員揃っての外出が困難になってきたが、個別で外出希望があれば支援している。	庭の草取りや野菜作り、洗濯物干しで外気に当たる機会が多い。庭にベンチが置かれ、日光浴や休憩などができるようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理して宅配牛乳を取っている人もある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らが電話を掛けたり手紙を書いたり は困難な状況になってきているが、本人、家族の希望があれば支援していく。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般の家屋を利用しているため、自宅に近い雰囲気である。 室内の飾りつけで季節感が感じられるようにしている。	周りも民家で、窓からの眺めも自宅のようで違和感がない。渡り廊下は、2か所にソファが置かれて、利用者の好きな居場所となっている。冬の日差しが窓から入り明るい。南側の居室は、出入り口の扉に主任が書いた絵が目飛び込み個性的である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やホールにも椅子やソファを設置しており、いつでも思い思いの場所で過ごせるようにしてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真を飾ったり、お気に入りのぬいぐるみ等を置いたりしている。 入居時に自室にはなじみのものを持ってきてもらうことができることを伝えている。	整理ダンスや藤の椅子、テレビなど持ち込まれている方もあるが、概ねシンプルな居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、風呂、個室は、わかりやすい表示にしている。 低床のベッドや手すりの設置で安全に過ごせるようにしている。		